

恒例の駅伝大会に優勝

「スマートな」農芸化学科三年生



遂にヤッター「御利益のあった」応援旗

会報第六号に農芸化学科の状況が載って以来、はや三年が経ちました。今回は、当学科の近況を中心に学部、大学のことについて若干触れてみたいと思います。

まず、教官については昨年三月農芸化学講座の助教として柏村直樹氏が赴任(既報第十号)されて以来移動はありません。

教官の中では、生物化学講座の田口寛氏は、昨年四月から本年八月迄米国オクラホマ大学へ研究のため出張中であり、また食品化学講座の山田哲也氏は、本年一月に一年間の予定で米国マリアナ大学へ、文部省在外研究員として出発されました。その他昨年中には嶋田梅林、柏村各氏が学会等で外国に出張

学部34名・修士5名 今春、新しく巣立つ

されました。現在当学科では、各講座共卒業、修論のまとめ、年度末卒業、学会準備などで、多忙な日々を送っています。退官された先生方は、田中庄助先生は東京で、岩本先生は鎌倉と江南で、滝先生は津で、石川先生は関町で、共に元気でお暮しのことは、何よりのことと存じます。

次に、農学部では昨秋、学部長選挙があり、石崎寛教授(農学科植物学、農昭18年卒)が再選されました。本年の定年退官は、農芸化学科にありませぬが、林学科の高橋胤一先生と農学科の倉田貞先生のお二人が予定され、共に来る四月一日に退官されます。お二人共農学部には約三十年間勤務されました。

ので、会員の中には選択科目で講義を受けられた方もおられること、存じます。

大学全体においては、学長が二月十日をもって変りました。新学長は、井沢道氏(医学部小児科教授)です。現在大学での大きな計画は、人文系学部の新設と総合大学院構想があげられます。前者は三重県も設置促進に尽力している様で、近い将来実現されることでしょう。後者は、現在医学部だけが博士課程がありますが、他の学部即ち、農、工、水は修士課程です。これを、博士課程までもつて大学院にしようと言うこと。一方、農学部と水産学部においては、これは別に、全国他大学の農水産学部と一緒に、博士課程を持つ大学院(連合大学院)というの設置準備が数年来続いており、これは比較的近い将来実現されることでしょう。

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第12号
昭和55年3月31日発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農芸化学科内
電話/津(0592)32-1211
振替/名古屋59345
印刷/株式会社ある

次試験の成績もかなりのハイレベルでありました。共通一次元年ということもあってか、倍率は前記のような低率でありましたが、実質的にはなかなかの激戦だったと言えましょう。昔年に噂されている様な得点では決して合格できないのではないのでしょうか。共通一次試験の成績は全国の大学農学部、特に一部旧制大学農芸化学合格者と比較して、ほとんど変わりない状態です。入学後、一年を経過した今日、現一年生の履習状況成績もよく、このことを物語っていると言えます。

さて、本年はどうでしょうか。この会報が発行される段階では分っているはずですが、入試が終っていない今日三月一日にはわかるはずありません。ただ、

昨年来、倍率は二次試験科目と密接な関係が特に出てきました。すなわち、科目数が多くなれば倍率は低下します。当農芸化学科の二次試験科目は、数学II Bと化学II(必須)及び多量の少いスマートな者の多い学科との印象があり、どうしても上位入賞さえ出来なかったものでした。現在三年生は、本年の倍率をあげておきましょう。農学部コース五・二、農業経営学コース四・〇、農薬土木学コース二・六、林学コース四・四、林産学コース六・三、農芸化学コース二・七、農業機械学コース七・四倍です。

次に学生諸君の話題をあげましょう。まず第一に、農化三年生が恒例の駅伝大会で優勝したことです。昨秋十一月二十八日津一長野時往復の農学部伝統の駅伝大会では、五十数チームが参加して行われましたが、三年

生チームはオープン参加も含め終始トップで完全優勝致しました。我が農芸化学科の三十数年の歴史の中で、どちらかと言うと、モサの少いスマートな者の多い学科との印象があり、どうしても上位入賞さえ出来なかったものでした。現在三年生は、本年の倍率をあげておきましょう。農学部コース五・二、農業経営学コース四・〇、農薬土木学コース二・六、林学コース四・四、林産学コース六・三、農芸化学コース二・七、農業機械学コース七・四倍です。

次に学生諸君の話題をあげましょう。まず第一に、農化三年生が恒例の駅伝大会で優勝したことです。昨秋十一月二十八日津一長野時往復の農学部伝統の駅伝大会では、五十数チームが参加して行われましたが、三年

形を総会を持ち、今迄御出席願えなかつた方々にも元氣な顔を覗かせていただき、縦の連りを作ってもらえるよう、次の様な企画を立案いたしました。

日 昭和55年5月17日(出)

場所 神原温泉・神原館

久居居局(五五三三三)宛

費用 総会パーティー代
一、〇〇〇円

クラス会費(含宿泊)
標準一万円プラスα

時間 集合 五時
総会 五時半〜六時
総会パーティー
六時〜七時
クラス会 七時〜

(註) 神原館へは近鉄(名古屋線)久居駅下車バス、タクシー

(近鉄) 神原温泉駅下車、バス、タクシー

当日、津駅西口(山側)四時半に旅館の送迎バスを用意してお待ちします。

●駐車場がせまいので、極力マ

イカーは避けてください。三月十日現在、クラス会開催決定の年次と幹事名は、専一(今西、渡辺)専三(神田、奥田)大1(岡本、福田)大4(敷本、渋谷)大16(酒井、杉崎)大25(香田、中世古)その他にまだ二三クラスが、お知らせをお願いします。

一昨年九月に始まった、三翠化学会基金の募集は、皆様の協力により、本年二月二十五日現在二百六十四万円に達しており、各クラスの募金状況は図の通りです。ところで、募金の期限につきましては、既に当初の期日を過ぎていますが、去る一月二十六日に開催された基金募金委員会において、出来るだけ多くの会員に協力していただくこと(現在会員総数約八百五十名中五百十四名)および目標額三百万円達成にあと一歩である開催の予定です。

農芸化学科機関誌「こうより23号」を発行
購入希望者はご連絡を

私共、農芸化学科の「こうより」も皆様の御支援のおかげをもちまして23号を発行することになりました。

在学生、教員、OBの三者を結ぶかけ橋として出発した「こうより」の23号は今回も人数的に最も多い先輩方からの原稿が

同窓の夕々の風通しを良くし、という、二年前に東海支部が設立されました。この二年間の活動ぶりは、「会報」で報告してまいりました。ゴルフとボーリングの大会をそれぞれ二回ずつ行ないました。ゴルフでは、三翠の大会で筆お

ることから、およそ三ヶ月延長することが決定されました。残り期間僅かですが、御協力の程お願いします。なお、郵便振替

私共編集委員としては、この機会に「こうより」が一人でも多くの方々に愛読されることを願っております。つきましては御手数ながら下記の住所まで「こうより購入希望」と書いた葉書で住所、氏名を明記の上申し込んで下さり、一部でも多く「こうより」を買っていただけるとお願いいたします。

〒514津市上浜町
三重大学農学部
農芸化学科
こうより編集委員会

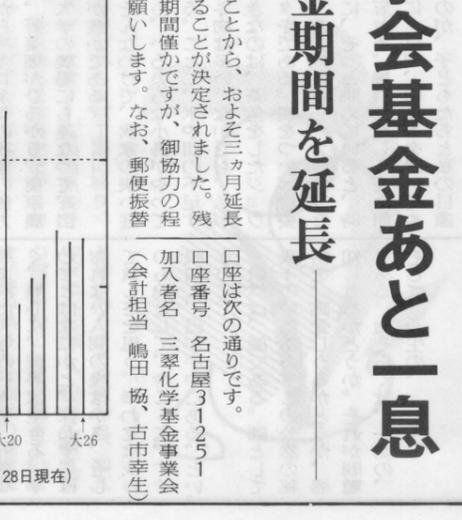
東海支部定期大会
来る4.13 マーじゃん大会を併催

ろしの諸氏もあって、コンペというよりはコンパの雰囲気でした。また、ボーリングでは、家族とも参加して楽しめました。先輩諸氏の子にはもうお年頃になっていて、チョンガー後輩との良い出会いの場になることも、と世話役は夢みています。

ともあれ、東海支部は、今後のより良い「まじわりの場」を目指して、良いスタートをきっています。

さて、ここに第二回定期大会を左記のように開きます。併せて記念のマーじゃん大会もたれます。ぜひ、御参加下さい。

4月13日(午後二時より、セントuryクラブ(名駅より南へ笹島交差点、南東角信泉ビル地下五八六一、二九五三)にて。定期大会に引続いて麻雀大会を行ないます。問合せ先(三三二一〇九九)長谷川迄。



先輩たちはガンバっています!!

そろそろ結婚も……

大22回卒 鈴木 義典

私を御存知であった方々、いかに御存知でしょうか。私をまだ憶えておられるでしょうか。近況をお知らせしたいと思います。また、私を全く御存知でない方には、三翠化学会員の中心にこの人間がいるということを知っていただければ幸いです。私も、実はごく平凡な人間なので、

現在の私を知っていただくためには、やはりその過去から知っていただく必要があると思います。私は、学部、修士とも生物化学研究室で学び、昭和51年に修了し中堅医薬品メーカーである日本ケミファに入社しました。ちょうどその年に日本ケミファでは、臨床検査部門が発足し、私はそこに配属されました。そこで初めて私が行った仕事というものが、営業でした。何しろ営業というものを全く知りませんでしたし、それに会社にとっても新規参入の業界でしたので、当初は戸惑うことのみ多かったです。私の場合、名古屋の旅館に常駐し、そこをベースとして名古屋の一部と三重岐阜の全域を担当しました。何しろ担当区域が広いので、三、四日は名古屋へ戻れず、次々と宿泊地を変えながら、移動しなければならぬことも、月に二、三回ありました。

人は営業という仕事を、ある面では華やかな仕事と見がちですが、実際は全く逆です。ユーザーとこやかに話しながらも、内面はまさにギリギリまで神経を使っているという感じが、いぶかしくありません。そして、検査室や医局へ入る瞬間に、自我を殺すということも哀しい習性として身につけたようです。すなわちユーザーと話をする時の会話というのは、そのほとんどが私の会話ではなく、検査票のフォーマットとしての会話であるとい

うことで、そこをいくくらいムをつけられようと、プロパーとしての私が謝り、プロパーとしての私がさらに売り込むという精神状態です。ただ、すべてがこうなってしまうと売り上げは、下がるかもしれない。営業というのは、物を売り込むということの前に、営業マン自身を売り込むということが、極めて重要なことであるからです。ずいぶんと偉そうに話を述べましたが、実は私には、一年間でこの仕事から離れたので、営業のプロとはとてもいえません。その門口から中をのぞいた程度で、会員の皆さんの中のプロの中のプロの方は二ヤリと笑ってられるのではないのでしょうか。

こうして、自分の時間はほとんどないという状態で、恐ろしく長い一日を一日一日と消化して、一年間がたったとき、愛車ポロロ号は三万五千km以上を走行していました。従って、私の運転には若干の自信があります。

さて、その後の私というのは、これがまた普通な会社勤めというわけにもいかず、すかさず名古屋保健衛生大学医学部生化学教室へ、研究生として半年間派遣されたのでした。そこでやった仕事というのは脂質関係でしたが、結構多忙を



大学でプロに入り、下宿には寝に帰るだけという状態でありました。結局、このように悪戦苦闘したにもかかわらず、どうも悪戦苦闘が多すぎるようですが、この仕事は、いわゆるペンディングになりまして、半年の苦勞も苦勞として終わりました。その後の私はといえば、これはもうごく平凡な会社員ではないでしょうか。埼玉県三郷市にある研究所に移り、製品開発に従事することになり、現在に至っております。

今までの私の手がけたものは、どんなものかと言わせていただきますと、胎盤由来のロイシンアミノペプチターゼ(P-LA)測定試薬、ゲル状血清分離剤、HDL(高比重リポタンパク)分画試薬、ヘモグロビンA₁測定用キットの四品目でありま

す。これらの商品を開発し、世に出すといつても、実は私一人ではできないものではなく、単に商品化のための基礎的な検討を、私が担当しただけであり、多くの人の力が総合されて、できるわけです。その中の一人に、研究室の先輩で関東化学株式会社の川崎晴彦氏(院一)がおられ、共同開発の過程でずいぶんお世話になり、教え

ていただきました。最近の私はといえば、何せ平凡な会社員生活です。テニスなどをやりだし、今年はいくつかのスポーツウェアを買おうかと、たわいもないことを考えており、しかし、今年も28も半ばを過ぎたことでもあり、そろそろ結婚もしようかなどと考え、結構多忙に暮らしております。

小生、実社会に出て早四年の歳月が過ぎました。学生時代の甘い生活の延長で今日まで来て居ります。下宿生活の楽しさ、開放感、クラブ活動の苦しさ、

忘れたい訳ではありません。家族の紹介をします。妻と子供二人の四人で、皆健康。長男は大学一年生で東北大学経済学部に通っています。目下仙台の住人娘はお茶の水女子大学附属高等学校一年生、妻と娘は東京の住人という訳で、家族四人が三ヶ所で暮らしており、全員顔を合わせれば夏休みと正月位のもので

今私は……

心の広い大先輩の中で

大24回卒 佐美 明正

充実感、卒業準備での情けなき等々我が青春時代がアルバム写真からなつかしく思い出されます。ここ数年、就職難で各先生開放感、クラブ活動の苦しさ、

は、名古屋の中心地である栄に別荘を建ててから早や二十五、この間殆んど東京に住み、大蔵省に勤務していましたが、昨年(五十三年)七月名古屋税関輸出部次長を命ぜられ、目下名古屋の住民です。着任当時は、仕事に不馴れなうえに、国際取引の大巾な赤字で税関をめぐり、国際情勢は極めてきびしく、大変苦勞しましたが、最近ではやがて着任、すべて順調に云々と感じます。と言っても苦勞がない訳ではありません。現在住んでいるの

と急に変わったかと思われ、学生気分を味わえるのも三四年くらいだろうと思えます。私の時代はこの就職難の最初の頃だったと思えます。成績も「農業化学」が始まって以来の劣等クラスと言われた程、とにかく勉強はしないし、卒業は食うして、先方のお荷物クラスでした。しかし、クラスの団結力はすばらしい物があり、駅伝、ラグビー大会

今も言った方がよいかも知れないが、学窓を離れて二十年、研究者の端々としての生活を送っている。これは、静岡県中郡を流れる大井川の右岸で、牧部の原台地である。約四千ヘクタールの原台地が広がって、北に南アルプス、東に富士山を臨み、駿河湾と遠州灘が陽にキラキラ輝く。私はそんな処にある農林水産省茶業試験場の一研究員として過ごしてきた。仕事は主に茶の化学、生化学の分野である。

ます。車がないので思うに任せず、年に数回程度です。それから言い忘れてはいけないことに、ゴルフがあります。と言っても上手な訳ではありません。この春始めたばかりで、スコアはお話になりませんが、目下ハンデが年令位になるよう努力しています。

会、化学のスポーツ大会、大学の祭のバザー等は毎年率先して参加し、合ハイ、クラス旅行、コンパ等も欠かさず行なったものでした。今でも毎年クラス会を開き、更なる友好を深め合っており、しかし相変わらず馬鹿な連中はばかりです。さてこんな中で一番最初に就職先を決めたのが、この私でありました。と言うといかにも賢

一大学で植物生化学を主に学んだ。その後、米カリフォルニア州にある一大学に在外研究員として留学し、一年余りを過ごした(帰国後、私の滞在中に赤木先生が来られたことを知り、日頃の御無沙汰から何も知らずにいたことを恥じた次第である)。

思えば、伊勢湾の潮風に吹かれて、青年期の希望と不安を友人と語り合い、必死の駆込では、次の走者にたすきを渡したとたん、意識が薄れたけたる昨日のようだ。大学の古い建物も変わり、総合大学としての新しいキャンパスになったとも聞かぬが、ゆくり訪ねることもなかなか出来ない。

こそ聞かれますが、実は酒が緑で、いつの間にか決まっていたと言ったのが本当でしょう。現在私は、三重県一の味噌醤油メーカーに勤務して居ります。工場長始め、部長、次長、課長と三重大学出身者で固めて居り、小生勉強不足の為にはば迷惑をかけていますが、心の広い大先輩ばかりですので心強いกำลังใจです。しかし、私もそろそろ

昨年は、東京のある大学の友人と、短期間ではあるが共同して実験をすることが出来た。現代社会のように、機構が複雑になり、専門が分化してくると、自分の存在という位置づけが出来にくくなる。その結果、安逸な生活に埋没してしまう。私は職業人としての後半を、若い時の遺産を食いつぶしていくのでなく、創造的に切り開いていくことが出来たらと、念じている次第である。

市制三十五年、人口十四万、神奈川県の中核に走る相模川、その広大な平野の一角にある緑豊かな町、これが私の住む本市である。東京通勤圏の最前線として、年々人口が膨らみ、建設の音が絶えない、小さいながら、活気のある近郊都市である。西に東丹沢山塊がせり、駅から三キロ余りの我が家の後方は、野菜畑がひろがり、東京農業大学の農場にも連なっており、自然が豊かな。

すっかりしなければと、やっと感じ始めました。大学の卒業式の日、担任の山口先生から言われた言葉をよく覚えています。「ためえで選んだ道だから、ためえで開いてこい。」なんとなく甘いままで生きてきた今日まで四年間、そして明日からの道はためえで切り開いていこうと心弾んできた昨今です。

庭の樹々、そして小鳥たち。恵まれた天与の日々を、邪念なく、無心に、彼等は生きる。幸わせとはなにかと、探ねずにはおれない人間の浅はかさ、そして貧しさを思う。幸わせは天与のものとして、今こゝに、すぐ眼前に、己が手中にある、というのに。

自然は、師である。師として我々の前にある。この公然の秘密を、感受しうるかどうか、感知しうるかどうか。それが問題である。おそろくは、一切の、そして、一生の。

わびしきッナゴチョン

大2回卒 中西 康雄

昭和二十九年春、三翠の学舎に別荘を建ててから早や二十五、この間殆んど東京に住み、大蔵省に勤務していましたが、昨年(五十三年)七月名古屋税関輸出部次長を命ぜられ、目下名古屋の住民です。着任当時は、仕事に不馴れなうえに、国際取引の大巾な赤字で税関をめぐり、国際情勢は極めてきびしく、大変苦勞しましたが、最近ではやがて着任、すべて順調に云々と感じます。と言っても苦勞がない訳ではありません。現在住んでいるの

富士を臨んで茶の研究

大8回卒 西條 了康

今も言った方がよいかも知れないが、学窓を離れて二十年、研究者の端々としての生活を送っている。これは、静岡県中郡を流れる大井川の右岸で、牧部の原台地である。約四千ヘクタールの原台地が広がって、北に南アルプス、東に富士山を臨み、駿河湾と遠州灘が陽にキラキラ輝く。私はそんな処にある農林水産省茶業試験場の一研究員として過ごしてきた。仕事は主に茶の化学、生化学の分野である。

思えば、伊勢湾の潮風に吹かれて、青年期の希望と不安を友人と語り合い、必死の駆込では、次の走者にたすきを渡したとたん、意識が薄れたけたる昨日のようだ。大学の古い建物も変わり、総合大学としての新しいキャンパスになったとも聞かぬが、ゆくり訪ねることもなかなか出来ない。

小鳥に餌をやるのが日課

大10回卒 下 孝一

庭の樹々、そして小鳥たち。恵まれた天与の日々を、邪念なく、無心に、彼等は生きる。幸わせとはなにかと、探ねずにはおれない人間の浅はかさ、そして貧しさを思う。幸わせは天与のものとして、今こゝに、すぐ眼前に、己が手中にある、というのに。

自然は、師である。師として我々の前にある。この公然の秘密を、感受しうるかどうか、感知しうるかどうか。それが問題である。おそろくは、一切の、そして、一生の。



